

共催

山田方谷の軌跡（～奇跡～）実行委員会
二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

後援

倉敷市

第二回 漢学者記念館会議

予稿集

日時：2018年8月4日（土） 13：00～17：45

会場：二松學舎大学 九段校舎1号館
2階201教室・11階会議室

「第二回 漢学者記念館会議」

開催趣旨

昨年 2017 年 7 月 29 日、二松學舎大学において早稲田大学中国古籍文化研究所との共催により漢学者記念館会議を開催したところ、全国各地から会議の趣旨に賛同する関係各位が参加されて、漢学者記念館をとりまく現状と課題に関する有意義なご意見とともに、来年以降の継続実施を望むご声援を数多くいただきました。

現在、漢学・漢学者への関心は研究ベースでは盛んになりつつありますが、人文学全体の危機的状況は変わらず、社会一般の漢学・漢学者への関心も十分とは言えません。現在の東アジアが抱える地域問題や各界で露呈するモラルをめぐる問題などに鑑み、ゼネラルな思考がますます必要とされる今日において、漢学は今一度顧みるべき内容を持つのではないのでしょうか。

そこで、人材育成・地域発展に尽くした漢学者の業績を伝える全国の記念館の学芸員・関係者にひろく呼び掛け、情報共有化と各種連携を促し、今後の課題を討議し、また漢学に対する認識を新たにし、社会に広くその意義をうたえるために、第二回漢学者記念館会議を開催します。

二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（SRF）

研究代表者 町 泉寿郎

—スケジュール—

第一部 講演会「近代岡山の漢学」

挨拶（江藤 茂博 二松學舎大学文学部 教授・文学部長）	13：00～13：10
1. 町 泉寿郎（二松學舎大学文学部 教授）記念展示解説「近代岡山の漢学」	13：10～13：40
2. 横山 俊一郎（関西大学文学部 非常勤講師）	
「備前・備中で活躍した泊園門人たち—その企業家活動と教育活動—」	13：40～14：25
3. 山田 安之（二松學舎大学 元理事長・山田方谷御子孫）	
「山田方谷の人となりと山田家の漢学」	14：25～15：10
4. 藤原 賢典、中西 浩之（倉敷市観光課）	
「高梁川流域圏における山田方谷の顕彰事業について」	15：10～15：25
閉会挨拶	15：25～15：30

第二部 漢学者記念館会議「漢学者記念館の現状と課題」

挨拶・趣旨説明（町 泉寿郎 二松學舎大学SRF 研究代表者・文学部 教授）	16：00～16：10
各機関からの報告（司会・進行：牧角 悦子 二松學舎大学文学部 教授）	16：10～17：10
1. 田村 啓介（高梁市教育委員会）「山田方谷記念館（仮称）の整備について」	
2. 深町 浩一郎（日田市教育庁 咸宜園教育研究センター研究員）	
「咸宜園教育研究センターの秋季企画展事業「咸宜園と明治維新」等について」	
3. 張 基善（芦東山記念館 専門学芸調査員）	
「芦東山記念館の現状と調査報告「芦東山をめぐる人々—岡家」」	
4. 横山 俊一郎（関西大学文学部 非常勤講師）「ここ最近の泊園記念会の活動について」	
5. 川口 眞弘（宮崎市安井息軒記念館記念館 館長・NPO 法人安井息軒顕彰会 副理事長）	
「偉人に親しみ、触れ、学び、まねぶことのできる記念館を目指して	
～宮崎市安井息軒記念館の現状と課題～	
6. 平崎 真右（二松學舎大学SRF 研究助手）「(調査報告) 漢学者関連相当施設の分布状況」	
全体討議	17：10～17：40
閉会挨拶	17：40～17：45
情報交換会	18：30～

発表タイトル	山田方谷記念館（仮称）の整備について							
発表者氏名	田村 啓介							
所属・職位	高梁市教育委員会							
<p>1 施設整備の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『新総合計画』…地域文化・芸術活動の振興を図る。 郷土の偉人山田方谷をはじめとする歴史的人物の顕彰を行う。 ○『総合戦略』…「山田方谷」の顕彰・啓発 財政破綻した備中松山藩を立て直した「山田方谷」の改革理念やその手法、そして多くの人々に感銘を与えた「思想」について、市を挙げて学ぶとともに、「山田方谷」の残した偉業を全国に発信し、「学びのまち」高梁を形成する。 <p>2 施設のコネプト等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JR備中高梁駅から「頼久寺庭園」「石火矢町武家屋敷」「備中松山城」への導線上に、山田方谷を紹介する施設を整備する。 ○記念館では、方谷に関する歴史資料のレプリカや各種のパネルを作成し、方谷の生涯とその事績について紹介する。展示は「儒学者への道」「備中松山藩の藩政改革」「教育への情熱」の三つのテーマで構成する。 【展示予定資料】 山田方谷肖像画、方谷揮毫奉納額（幼少時）、方谷扁額「至誠惻怛」 方谷漢詩掛軸、河井継之助「塵壺」等のレプリカ ○また、映像コーナーを整備し、方谷の事績を紹介するアニメを含む各種映像を放映し、わかりやすく、親しみやすい施設とする。 ○市内及び県内の「方谷ゆかりの地」に関する情報を紹介し、観光ガイド機能も併せ持つ施設とする。 ○方谷を紹介する既存施設には、「高梁市歴史美術館」（原田北町）「埴原邸資料室」（石火矢町）紺屋川物産館（本町）及び「方谷の里ふれあいセンター」（中井町西方）があるが、それぞれの役割を分担し、相乗効果をもたらすように努める。 ○以上、『新総合計画』や『総合戦略』に掲げる目的達成のほか、NHK大河ドラマ放映実現や、新たな観光の流れをつくり、市の活性化に資することとする。 <p>3 整備場所と今後のスケジュール等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整備場所 旧高梁市中央図書館1F 高梁市向町 ○スケジュール（予定） <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">施設改修工事</td> <td style="text-align: right;">7～8月</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">展示委託（レプリカ及びパネル作成、ケース整備等）</td> <td style="text-align: right;">8～9月</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">開館</td> <td style="text-align: right;">10月</td> </tr> </table> 			施設改修工事	7～8月	展示委託（レプリカ及びパネル作成、ケース整備等）	8～9月	開館	10月
施設改修工事	7～8月							
展示委託（レプリカ及びパネル作成、ケース整備等）	8～9月							
開館	10月							

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

発表タイトル	咸宜園教育研究センターの秋季企画展事業 「咸宜園と明治維新」等について
発表者氏名	深町 浩一郎
所属・職位	日田市教育庁 咸宜園教育研究センター研究員
<p>(1) 咸宜園について</p> <p>漢学者・漢詩人・教育者であった廣瀬淡窓(1782-1856)が文化14年(1817)に開設した私塾で、明治30年まで存続し、全国66カ国から4,797名(左記は入門簿上の数で、実質は5,000名以上)が学んだ、江戸時代後期最大規模の私塾である。</p> <p>咸宜園の教育は、当時としてはユニークな制度を有するもので、入門時に身分・年齢・学歴を奪う「三奪法」による平等主義、毎月の試験など厳正な評価により無級から九級までの等級に位置づける「月旦評」による実力主義、塾生全員に塾生活での職務分担をもたせる「職任制」による実学主義などと、詩作奨励による情操教育や個人の希望に副った個性尊重などである。これらの教育システムは、いわば近代の学校教育の先駆的なものであったと評されている。</p> <p>咸宜園の卒塾生は多様で、教育者、儒学者、蘭学者をはじめ、政治家、医家、僧侶、画家、科学者など各分野・職業に亘っている。</p> <p>(2) 秋季企画展「咸宜園と明治維新」について</p> <p>本年(平成30年)は、明治維新から150年となるため、全国各地で関連事業が計画されている。咸宜園教育研究センターでも、明治維新に関係した門下生の活躍状況を中心に、秋季企画展で関係資料やパネル展示などで紹介することを予定している。</p> <p>咸宜園では、第三代塾主の廣瀬青邨、第四代塾主の廣瀬林外をはじめ、兵部大輔の大村益次郎、文部大丞の長三洲、東京都知事の松田道之、内務次官の中村元雄など明治政府で活躍した人材や、後に内閣総理大臣となる清浦奎吾、大審院長の横田国臣なども輩出している。これらの人材の事績や、咸宜園が近代教育制度に与えた影響などを紹介するものである。</p> <p>展示期間：平成30年10月6日(土)から平成30年12月28日(金)まで 展示場所：咸宜園教育研究センター公開展示室 主催：日田市・日田市教育委員会</p> <p>(3) 「咸宜園教育研究センター研究奨励事業」の取組み(別紙、募集要項)</p> <p>平成30年度より取り組む新規事業で、今年度は2名の研究者が採択された。</p>	

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

発表タイトル	芦東山記念館の現状と調査報告「芦東山をめぐる人々—岡家」
発表者氏名	張 基善 (チャン キソン)
所属・職位	芦東山記念館 専門学芸調査員
<p>(1) 運営・活動</p> <p>○設立：H19年10月</p> <p>○職員（下線は増員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長1名（非常勤）、<u>学芸員1名</u>、<u>専門学芸調査員1名</u>（非常勤）、業務推進員2名（非常勤）、臨時職員1名 <p>○特別展とイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度夏季 「かたりつぐ水にまつわることばとくらし」（展示ごとに親子ワークショップ開催） 同 秋季 「修身図鑑—掛図で学ぶ仙台藩の偉人—」 同 冬季 「ふるさとの学校～思い出のかたち～」 H30年度春季 「雨にまつわる不思議な話」 同 夏季 「犬に願いを—想いを伝えることばとカタチ—」 ・館長講座：細井計（岩手大学名誉教授）、年5回（移動研修1回を含む） ・特別講演会：片岡龍（東北大学准教授）1回 ・芦東山記念館調査研究事業報告会「新たな研究から見えてきた芦東山の姿とその業績」 稲畑耕一郎（早稲田大学文学学術院教授）、張基善（宮城教育大学非常勤講師） <p>○H29年度入館者：1626名</p> <p>(2) 調査・研究：「芦東山をめぐる人々—岡家」</p> <p>○安藤智重宮司（安積良斎記念館）のご提案</p> <p>「漢学者の各館を、漢学者の関連図を作成してつなげてはいかがか」、「漢学者のネットワークを構築して、漢学自体を盛り上げていく必要」（「安積良斎記念館の現状と課題」『漢学者記念館会議予稿集』p9、2017）</p> <p>⇒ 芦東山に関連した岡家の活動と、『元老院蔵版無刑録』関係の人物を師弟・交友関係を中心に紹介</p> <p>○芦東山と岡家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦東山（1696-1776）：仙台藩の儒学者。仙台藩学問所の座列について意見を出し、幽閉（「他人預け」）される。室鳩巢に刑法関連の著述を頼まれ、近代刑法思想の先駆とされる「無刑録」（16冊。1冊欠、岩手県指定文化財）を執筆。明治10年（1877）、元老院より『元老院蔵版無刑録』刊行。 ・岡家との関係：芦東山の婿・畑中太忠（仙台藩家臣）が再婚して産んだ清が岡正介と結婚。 	

〈岡家関連略系図〉

芦東山 (1696-1776)

|

姪 = 畑中太忠(1734-97) = 板橋千代 (再婚)

|

清 = 岡正介 (1757-1805)

|

蔵治 (1793-1863)

|

台輔 (1818-1900、長男) — 千仞 (1833-1912、5男)

|

濯 (1852-1931)

= : 婚姻関係

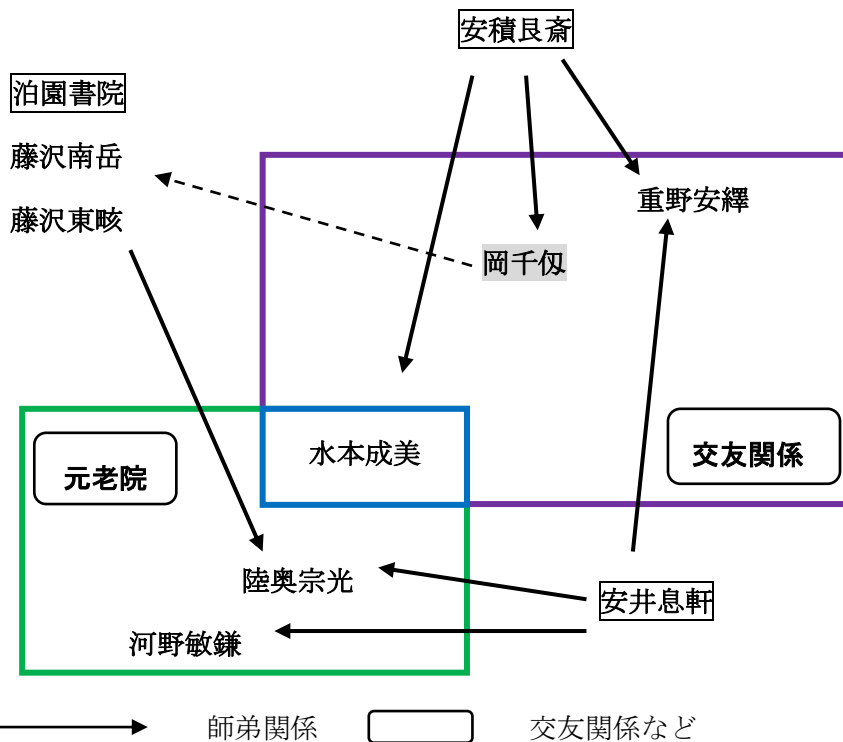
○岡家の人々：芦東山関連の資料収集、遺稿集編纂、「無刑録」の伝播

- ・蔵治：芦東山関連資料の収集と筆写。「無刑録」を筆写し、仙台藩評定所に献上。
- ・台輔：同上。資料集『東山集』18冊の編纂など。「無刑録」を筆写し、それが元老院に伝わったか。
- ・千仞：台輔の筆写本を依田董（法律学舎教員、大学少助教、左院一等書記生）、県信輯（宇都宮藩士。司法省判事）に提供。県信輯所蔵「無刑録」が元老院に伝わる（→ 陸奥宗光・河野敏鎌 → 水本成美）。
- ・濯：遺稿集『玩易齋遺稿』（～大正9年か、編纂芦祥平、監修鈴木省三、全24巻か）の校閲。

○岡千仞の交友と『元老院蔵版無刑録』の人々

- ・岡千仞：仙台藩出身の学者、尊攘論者。号は鹿門。松本奎堂・松林飯山と双松岡塾を経営。藩校養賢堂の指南役。大学助教、修史館協修、東京図書館長など歴任。『尊攘紀事』など。

〈人物関係図〉



○安積良斎門下：水本成美、重野安繹、岡千仞は昌平黌での繋がり。『禺于日録』（1853）は3人の相模、安房の遊歴記。

○安井息軒門下：重野安繹、陸奥宗光、河野敏鎌

○元老院：水本成美（議官）、陸奥宗光（幹事）、河野敏鎌（幹事）。明治10年（1877）『元老院蔵版無刑録』刊行。

○潁園書院：陸奥宗光は藤沢東咳に師事。東咳は長男南岳の教育を千仞等に依頼したとされる。

■ 芦東山記念館と他館との関係

・岡千仞および『元老院版無刑録』関連の人々との繋がりにより、安積良斎記念館・安井息軒記念館・潁園記念会との関係が判明。

発表タイトル	ここ最近の泊園記念会の活動について
発表者氏名	横山 俊一郎
所属・職位	関西大学文学部 非常勤講師
<p>I 第 57 回泊園記念講座の開催〔2017 年 10 月 20 日〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「藤澤桓夫と大阪の文芸」 ・「藤澤桓夫の人物交流——大高時代を中心として」（関西大学文学部・増田周子教授） ・「藤澤桓夫の大大阪」（関西大学人間健康学部・浦和男准教授） <p>II 積奠祭文の奏上と講筵〔2018 年 5 月 13 日〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所：道明寺天満宮（大阪府藤井寺市） 歴史：第 115 回（第 1 回積奠は明治 36 年） ・吾妻重二会長による祭文の奏上と『孟子』講義 <p>III 刊行物</p> <p>①吾妻重二編著『新聞「泊園」附 記事名・執筆者一覧 人名索引』〔2017 年 3 月 30 日刊行〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞『泊園』（昭和 2 年 12 月から同 18 年 9 月まで、合計 78 号）を影印して出版したもの ・掲載されているのは、書院の活動状況や同窓生の動向、道德・学術の文章や漢詩文など <p>②吾妻重二編著『泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈』〔2017 年 8 月 31 日刊行〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学創立 130 周年記念・泊園書院シンポジウム(第 56 回泊園記念講座)の論文集 ・腰帯には「泊園書院は大阪最大、最高の学問所であった！」→これはハツタリではないのこ と <p>③拙著『泊園書院の明治維新一政策者と企業家たち一』〔2018 年 3 月 31 日刊行〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊園書院の門人研究（おもに幕末の政策者と明治の企業家） ・発表者が関西大学東アジア文化研究科に提出した博士論文を大幅に加筆・修正したもの <p>④『泊園』第 57 号〔2018 年 6 月 30 日刊行〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 57 回泊園記念講座での講演内容 ・小林和彦会員による報告「泊園書院と月ヶ瀬について」 第 115 回道明寺天満宮積奠祭文など <p>IV 泊園古典講座の開催〔2016 年度より継続中〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学梅田キャンパス（2016 年 10 月開設）での開講 ・泊園書院のすぐれた伝統を現代に生かすために設けられた市民向けの古典講座 ・「中国の古典を読む」、「漢詩を読む」、「三国志を読む」という三つのコースあり <p>V 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 58 回泊園記念講座〔2018 年 10 月 26, 27 日〕 ・テーマ：「東西学術研究と文化交渉——石濱純太郎没後五十周年記念国際シンポジウム」 	

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

発表タイトル	偉人に親しみ、触れ、学び、まねぶことのできる記念館を目指して ～ 宮崎市安井息軒記念館の現状と課題 ～
発表者氏名	川口 眞弘
所属・職位	宮崎市安井息軒記念館記念館 館長・NPO 法人安井息軒顕彰会 副理事長
<p>1 安井息軒顕彰の歩み</p> <p>(1) 孫の安井小太郎の果たした役割 『漢文大系』、資料の収集・保管、発展、集大成</p> <p>(2) 郷土史家 若山甲藏 『安井息軒先生』出版、安井息軒顕彰会発足 大正2年(1913)</p> <p>(3) 森鷗外『安井夫人』発表 大正4年(1914)</p> <p>(4) 生誕の地に半九公園完成、旧宅復元、徳川家達書生誕の地の碑建立 昭和4年(1929)</p> <p>(5) 没後80周年祭・先人祭挙行、これ以降命日に式典・講演会開催 昭和30年(1955)</p> <p>(6) 息軒百年忌祭挙行 昭和50年(1975)</p> <p>(7) 旧宅が国の史跡文化財に指定 昭和54年(1979)</p> <p>(8) 史跡安井息軒旧宅保存修理及び周辺整備 平成5年(1993)</p> <p>(9) 息軒生誕200年祭挙行、特別展開催 平成11年(1999)</p> <p>(10) 飢肥藩清武郷明教堂跡地に「きよたけ歴史館」開設 平成14年(2002)</p> <p>(11) プロ野球オリックスバファローズキャンプ地「Sokken Stadium」完成 平成27年</p> <p>(12) 「きよたけ歴史館」⇒「安井息軒記念館改称」市営から指定管理に 平成29年</p> <p>2 安井息軒の果たした役割</p> <p>(1) 学者として</p> <p>ア 江戸期漢学の集大成</p> <p>イ 儒学と法学双方を極めた古学派の学者</p> <p>ウ 慶應義塾大学斯道文庫「安井文庫」に父滄洲、孫小太郎と共に1万点の著作・史料等</p> <p>エ 清国や朝鮮でも</p> <p>(2) 教育者として</p> <p>ア 飢肥藩清武郷「明教堂」、飢肥藩校「振徳堂」、江戸「三計塾」、昌平坂学問所</p> <p>イ 陸奥宗光、谷干城、井上毅、小倉処平、秋月種樹、三好退蔵等約2000人の弟子</p> <p>ウ 明治天皇の侍講の依頼も</p> <p>(3) 政治アドバイザーとして</p> <p>ア 藤田東湖を介して水戸斉昭からアドバイスを</p> <p>イ 老中板倉勝静からは奥州白川の代官の話も</p> <p>(4) 故郷のため、日本のために</p> <p>ア 間引き禁止、二期作、養蚕、種痘紹介、敬老の典…</p> <p>イ 明治になってから入門者最大(知事、官僚たち…) 法学を吸収し、新国家・地方創 成</p> <p>3 息軒の評価の変遷</p> <p>(1) 幕末の大儒学者、江戸期儒学の集大成者</p> <p>(2) 江戸から明治初頭の大儒学者</p> <p>(3) 知の巨人(儒学、法学、国学、洋学、蘭学、医学…)</p> <p>(4) 近代的法治国家への先導者</p> <p>※ 研究者(敬称略)</p> <p>九州大学：町田三郎(故人)、宮崎大学：黒江一郎(故人)、慶應義塾大学：高橋智、 早稲田大学：古賀勝次郎、二松學舎大学：町泉寿郎、梅光学園：中野新治、宮崎大 学：山元宣宏、中国湖南大学：青山大介…</p>	

4 今に生きる安井息軒

偉人に親しみ、触れ、学び、まねぶことのできる記念館を目指して

【 本館並びに顕彰会の仕掛け 】

(1) 親しむ・触れる

- ア 旧宅並びに記念館の梅ちぎり（園児、子育て支援センター…）
- イ 夏休み子ども息軒塾（小学生）
- ウ 郷土祭りへの参加（文教行列）
- エ 息軒先生作品展
- オ 安井息軒書道展
- カ 息軒小学生かるた大会
- キ 小学生の遠足来館
- ク 高齢者クラブやデイケア等の来館
- ケ 息軒ふるさとウォーク
- コ 息軒探訪バスツアー
- サ 呈茶（梅の季節に茶室でお茶のふるまい）
- シ 先人祭（命日に実施）
- ス お佐代さんを偲ぶ会（1月第1土曜日に実施）
- セ 学校におけるかるた大会
- ソ 息軒劇、息軒先生の歌
- タ 息軒パズル開発
- チ 息軒グッズ開発（葉、シール）

(2) 学ぶ・まねぶ

- ア 遠足・社会見学来館
- イ 夏休み子ども息軒塾
- ウ 大学の授業としての来館（講義・見学）
- エ 安井息軒学習発表会
- オ 企画展（夏、秋、冬）
- カ 安井息軒記念館講座（年6回）
- キ みやざき三計塾「安井息軒の著作を読む」（『論語集説』、講師：宮崎大学准教授）
- ク 安井息軒記念講演会（安井息軒の命日、先人祭終了後実施）
- ケ 道徳のお話の開発
- コ 安井息軒の生涯と偉業 DVD 並びに台本：市内各小学校並びに清武町域の学校に無償配布
- サ 息軒関連の図書販売
- シ 図書閲覧室の充実
- ス 出前講座の実施

※ さまざまな努力により初年度は年間目標の1万人達成

5 課題

(1) 広報・周知のための活動の充実

現状貢献は大きいですが、決して派手な人物ではないだけに…

- ア HPの充実
- イ 地域並びに宮崎市の広報活用
- ウ チラシ・ポスターの作成と配布
- エ さらにグッズ開発も

(2) 研究の深化・充実

- ア 漢籍の解読
- イ マイクロフィルムの電子化

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

- ウ 足で稼ぐ研究の充実
- エ 研究活動の充実
- オ 学術ネットワークの構築

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

発表タイトル	(調査報告)漢学者関連相当施設の分布状況	
発表者氏名	平崎 真右	
所属・職位	二松學舎大学 SRF研究助手	
<p>前回の漢学者記念館会議(2017.7.29)以降、全国各都道府県の教育委員会(あるいは文化財課/保護課など)に対し、都道府県下における漢学者(儒学者)の関連相当施設の有無について、質問調査を行った。対象施設の該当なしも含め、概ねの回答を得られたことから、本報告では質問調査をもとに関連相当施設の分布状況について報告を行う。</p> <p>各回答のなかには、「漢学者(儒学者)の関連相当施設」とまではいかずとも、非漢学者(神道家、蘭学者ほか)の関連施設や、漢学者関連資料の収蔵場所に関する情報も含まれている。本発表では、それら関連資料の収蔵場所に関する情報も有意なものとして、報告中に含めることとした。</p> <p>具体的な回答例は以下のようなになる。</p>		
秋田	平田篤胤・佐藤信淵研究所	弥高神社が運営。昭和57年設立。
	羽後町歴史民俗資料館	佐藤信淵(1769-1850)の関係資料を所蔵。
岩手	一関市博物館	大槻磐溪(1801-1878)の展示コーナーあり。
	(水沢市立)高野長英記念館	昭和46年設立。
	(盛岡市立)先人記念館	明治以降が中心の施設。
福島	該当なし	熊坂覇陵(1706-1764、現・保原町生まれ)の紹介。覇陵の子・台州(1735-1803)、孫・盤谷(1767-1830)。
新潟	(三条市立) 漢学の里 諸橋轍次記念館	平成4年設立。平成30年9月30日に「(第一回)諸橋轍次記念漢字文化理解力検定」を実施予定。目の前に「道の駅漢学の里しただ」あり。
山梨	該当なし	竜王歴史民俗資料館に山県大弼(1725-1767)の関連資料所蔵。
栃木	該当なし	漢学者・須永元(1868-1942)の旧蔵資料は、佐野市郷土博物館と図書館に所蔵。
埼玉	該当なし	塙保己一記念館は本庄にあり。
千葉	大原幽学記念館	平成8年設立。
	県立佐倉高校地域交流施設	「鹿山文庫(前身・藩校佐倉学問所所蔵の和装本+明治45年刊行以前の洋装本の総称)」所蔵。
	木更津市立図書館	「至徳堂(文化14年(1817)、現・木更津市高柳字塚之腰に設立された郷学)」関係資料所蔵。
東京	該当なし	斯文会の紹介へ。

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

愛知	(東海市立) 平洲記念館・郷土資料館	昭和49年設立。
	(石川) 丈山苑	平成8年設立。運営は株式会社ピーアンドピー(指定管理者)。
	田原市博物館	渡辺崋山(1793-1841)、田原藩関係資料所蔵。
	時習館(吉田藩校)	現・県立時習館高等学校。
	成章館(田原藩校)	現・県立成章高等学校。
	明倫堂(名古屋藩校)	現・県立明和高等学校。
岐阜	岩村歴史資料館	藩校「知新館」資料、佐藤一斎(1772-1859)の紹介展示あり。
	奥の細道むすびの地記念館	「先賢館」に梁川星巖(1789-1858)の展示。
	飛騨高山まちの博物館	文化人、郷土史などの展示。
滋賀	高島市教育委員会 文化財課	中江藤樹(1608-1648)や浅見綱斎(1652-1712)の関係資料や、藤樹書院・綱斎書院に関わる調査研究に携わる。
	藤樹書院	大正11年に国史跡指定。
	近江聖人中江藤樹記念館	中江藤樹関係資料の収蔵・保管・展示。
	蕃山文庫	熊沢蕃山(1619-1691)縁者による顕彰施設。平成19年頃に建物解体。現在は跡地のみ。
	県立琵琶湖文化館	熊沢蕃山関係寄託資料(一部)を保存管理。
	浅見綱斎書院	浅見綱斎の関係資料を保存管理するため地元大田区が設立。
	彦根城博物館	龍草廬(1714-1792)関係資料の収蔵・研究・展示。
	米原市教育委員会 歴史文化財保護課	受託の「章斎文庫」資料中に小野湖山(1814-1910)関係資料を収蔵。
	(長浜市立) 高月観音の里歴史民俗資料館	雨森芳洲(1668-1755)の民間顕彰団体「芳洲会」所蔵資料を収蔵・研究・展示。
島根	該当なし	中沼了三(1816-1896)関連資料は隠岐の島図書館、藩校関係資料は島根県立図書館、「養老館」関係資料は津和野郷土館に所蔵。
山口	下関市立歴史博物館	下関市ゆかりの儒学漢学者の資料も収集展示。
	下関市立豊浦小学校教育資料館	毛利家や乃木家からの寄贈資料や歴代校長が収集した資料の収蔵。

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

	月性展示館	柳井市遠崎妙円寺の境内に設立。月性（1817-1858）、吉田松陰（1830-1859）関連資料所蔵。
	岩国徴古館	宇都宮遯庵（1633-1707）、東沢瀉（1832-1891）の関係資料を収蔵。
広島	頼山陽史跡資料館	昭和10年、財団法人頼山陽先生遺蹟顕彰会（現・財団法人頼山陽記念文化財団）設立の「山陽記念館」を前身とする。平成27年より広島県直営施設。
	菅茶山記念館	平成4年設立。菅茶山（1748-1827）をはじめとする文人、神辺町ゆかりの画家・書家たちの作品を収集・研究・展示。
	県立歴史博物館	菅茶山の関連資料所蔵。
	県立福山誠之館高等学校 資料展示室	阿部正弘（1819-1857）、江木鰐水（1811-1881）、門田朴斎（1797-1873）の関連資料を所蔵・展示。
	竹原市歴史民俗資料館	昭和55年設立。地域の歴史・民俗資料を収集・保存・展示。竹原頼家の関連資料所蔵。
徳島	該当なし	阿南市立阿波公方歴史民俗資料館は、足利義根（1747-1826）の漢詩集「棲龍閣詩集」を所蔵。
愛媛	(西条市) 小松温芳図書館郷土資料室	近藤篤山（1766-1846）関連資料を所蔵。
	(宇和島市立) 簡野道明記念吉田図書館	簡野道明（1865-1938）夫人による寄付（金一万、道明編纂教科書と蔵書）により設立。
	大洲市立博物館	中江藤樹関連資料を所蔵。
	暁雨館	近藤篤山や安藤正楽（1866-1953）など郷土の先人を紹介展示。
	愛媛人物博物館	中江藤樹・近藤篤山・尾藤二洲（1747-1813）などゆかり深い人物の遺品や業績の展示。運営は株式会社レスパスコーポレーション（指定管理者）。
佐賀	多久市先覚者資料館	東原庵舎に学んだ人物や歴史上の人物を紹介展示。
	東原庵舎	多久聖廟に隣接。東原庵舎は多久茂文（1670-1711）により元禄12（1699）年に設置された朱子学を基本とした学校機関（邑校）。現在は「公益財団法人孔子の里」による管理。

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

	有田町歴史民俗資料館	谷口藍田（1822-1902）、正司考棋（1793-1857）の関連資料あり
沖縄	該当なし	程順則（1633-1735）の関連資料は県立博物館・美術館、名護市立博物館に所蔵。

なお、上記の回答例より漏れた漢学者相当施設としては、例えば以下のような事例も認められる。

新潟	燕市長善館史料館	天保4（1833）年、鈴木文臺（1796-1870）が創立した私塾を元とする。長善館関係者の資料を収集・展示。
岐阜	梁川星巖記念館	曹源山華溪寺（曹洞宗）境内に設置され、梁川星巖（1789-1858）関連資料を所蔵・展示。
兵庫	青谿書院	池田草庵（1813-1878）の開いた漢学塾を元とし、草庵の遺品・著書など関係資料を数百点展示。
香川	林求馬邸	慶応3（1867）年、多度津京極藩の家老・林求馬が別邸として築いた家老屋敷。邸内に求馬の先代・林良斎（1807-1849、陽明学）の私塾「弘濱書院」の復元や、関連資料を所蔵・展示。
大分	国東市三浦梅園資料館	三浦梅園（1723-1789）の関連資料（自筆稿本類30種212冊及び器物4点 - 肖像画・天球儀・顕微鏡・落款印 - など）を所蔵・展示。
熊本	横井小楠記念館	横井小楠（1809-1869）関連資料のほか、勝海舟・坂本龍馬・西郷隆盛などゆかりの人物の書を所蔵・展示。

上記の回答を整理するなかで見てきた点として、関連相当施設や関連資料の収蔵機関の運営主体について、次の四点に区分することができる。

- ①教育委員会での管理（滋賀県など）。
- ②市立・町立、公益財団法人等の公的機関による管理運営。
- ③個人による私的な管理運営。
- ④学校教育機関内や博物館・歴史民俗資料館内に、関連資料が分散しての収蔵・管理。

各資料の分類立てや、(資料の)管理機関のバラつきなどもみられるため、必ずしも一人物の関連資料が、一か所に集中している訳ではない。さらに自治体の各担当者も、(このような漢学者関連施設や関連資料については)担当業務に外れる点があるだろうことのほか、分散収蔵される関連資料を一元的に把握することは困難でもあるためか、例えば漢学者関連資料に関する横断的なデータベースといったものは、現状では認めることができない。

以上の点は、SRF 教学研究班でこれまで実施してきた学校史関連調査とも、問題意識が一部重複する。例えば、明治期に創設された学校教育機関で、漢学の流れを汲む機関、漢学・漢文学を教授した人物たちに関する調査事例として、以下のような例が挙げられる。

第二部 漢学者記念館会議 各機関からの報告

<p>筑紫女学園 中学高等学校 (福岡)</p>	<p>創設者・水月哲英(1868-1948)は、明治 16 年に蕤姑射徳令(?-?)の私塾「修文館」で一年半、漢学を学ぶ。蕤姑射徳令は廣瀬淡窓(1782-1856)の「咸宜園」で学んだ後、京都に遊学(32 歳)、高倉学寮(現・大谷大学)で教鞭をとる。後、故郷で住職を継ぐ(46 歳)。哲英は最晩年の徳令に師事する。</p>
<p>広島女学院 (広島)</p>	<p>高等女学部長・児玉弥三郎(1869-1944)は、菅茶山の「廉塾」で学んだ後、広島県師範学校で国語・漢文を専攻。廿日市高等小学校校長、広島商業学校、札幌師範学校勤務の後、広島女学院に赴任。</p>
<p>成田高等学校・附属 中学校(千葉)</p>	<p>国漢教師を務めた三門健一(1904-?)は、成田中学校から國學院大学高等師範部へ進学。その後、母校で教鞭をとる。儒教を研究。</p>
<p>東北学院 (宮城)</p>	<p>漢文教師・福澤定興(1865-?)は、明治 18 年に二松学舎入学、同 21 年卒業後、二松学舎で助教・塾頭を勤める。明治 26 年、東北学院漢文科教授に就任。以後 40 年程同校で勤務。受洗してクリスチャンとなる。</p>
<p>広島県立 日彰館高等学校 (広島)</p>	<p>日彰館高等学校は前身を「私立中学日彰館」(1894 年)にとる。創立者・奥愛次朗(?-?)は、「朝陽館(安芸広島藩家老三原浅野家の学問所)」の教授・高浦豊太郎(1833-1921)が維新後に開いた家塾「日彰館」に通い、それを引き継ぐ形で私立中学を設立(高浦を私立中学に講師として招く)。 高浦は吉村斐山(1822-1882)に陽明学を学び、池田草庵にも入門した儒者。</p>

漢学の流れを汲む学校教育機関、または学校教育機関内で漢学・漢文学を教授した人物たち、それぞれの関連資料は、各教育機関内に設置された展示室や史資料センターなどで保管、あるいは展示されており(ex.広島女学院歴史資料館、東北学院史資料センター)、各機関の所蔵資料、関連事項を横断するデータベースがあるわけではない。

【一つの課題】 漢学／漢文学に関する情報網として、学校機関関連情報と、漢学者記念館相当施設・漢学者関連資料の所蔵機関とをリンクさせた、横断・立体的なデータベースの作成。

【一つの提案】 「日本漢文文献目録データベース」に、上記の漢学者記念館相当施設・漢学者関連資料の所蔵機関、学校機関関連情報をデータ入力することで、学校史調査とのリンケージと、(暫定的な)横断・立体的なデータベースの立ち上げ。

(二松学舎大学日本漢学研究センター <http://www.nishogakusha-kanbun.net/database/>)

